

地域における雇用創造（事業評価）インキュベーション

グラウンドワーク・インキュベーションでは、109名がNPOや社会的起業を起業しました。既に、事業主を含めて43名の新規雇用を創出しており、事業が軌道に乗る5年後には、350名程度にまで拡大ことが予想されています。

起業者数	109名
雇用創造数	48名

なお、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業支援の効果をみるために、起業した109名に対するアンケート調査を実施したところ、結果は以下の通りでした。

応募時点で、最も必要だと感じていたこと	合計
回答数	102
起業資金	56
起業に関する知識・ノウハウ	14
起業仲間	12
起業意欲	6
相談相手	3
その他	11

起業支援で最も役立つもの	合計
回答数	102
起業支援金	74
起業に関する研修	10
メンタリング・サービス	8
その他	10

アンケート調査では、起業のために、最も不足しており、また最も役立つ支援は、資金的なものという回答が圧倒的でした。ただし、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業家は、平均100万円の起業支援金に加え、自己資金額は、平均56万円、多い方では700万円にのぼったことから、起業支援金が、自助努力の後押しとして活用されたことが伺えます。また、その他、応募の段階で必要と感じていた「起業に関する知識やノウハウ」「仲間」「相談相手」についても、起業支援として実施した「研修」や「メンタリング・サービス」が、一定の役割を果たしたと言えます。

なお、グラウンドワーク・インキュベーションによる起業家109名の内、96名(88%)が、グラウンドワーク・インターンシップの受講生であり、その内42名(39%)が、「インターンシップに参加しなければ起業しなかった」と回答しています。グラウンドワーク三島では、グラウンドワーク・インキュベーションに先行して、グラウンドワーク・インターンシップを開始し、事業計画作成ワークショップ等を通して、起業家マインドを育みましたが、それが一定の成果を生んだと言えるでしょう。